

本学附属病院で TAVI を開始

外科手術が困難な患者さんへの新しいアプローチ

■北河内で初の TAVI（経カテーテル的大動脈弁植え込み術）施設認定

■体への負担が小さく、回復も早くなり入院期間短縮に

■ハートセンターで多職種が連携して対応

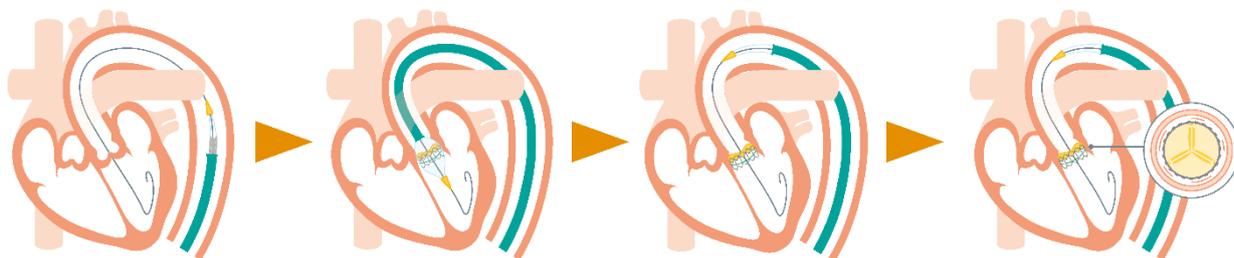
学校法人 関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫）附属病院（病院長・澤田敏）は、大阪府北河内地区では初となる TAVI（経カテーテル的大動脈弁植え込み術）実施施設としての認定を受け、3月から治療を開始しました。TAVI（Transcatheter Aortic Valve Implantation）とは、大動脈弁狭窄症（次ページ用語解説参照）の治療を行う際、大きく開胸せずに心臓が動いている状態でカテーテルを使用し、新たな人工弁を心臓に植え込む新しい治療法です。

大動脈弁狭窄症の根治術はこれまで、標準治療である胸を切開しての外科的手術しか選択肢がありませんでしたが、TAVI によって高齢や併存疾患のために手術が困難だった患者さんにも、治療が可能となります。

TAVI の特徴としては、心拍動下（心臓を停止させずに行う）カテーテル手術で患者さんの体への負担が少なく、3週間程度の入院が必要だった従来の外科的手術に対して、術後翌日から歩行することができるため、早期にリハビリテーションが行え、1週間程度で退院が可能となることが挙げられます。

なお、附属病院では循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、看護師、薬剤師などの多職種からなるハートセンターを開設しており、それぞれが担当領域のプロとして患者さん一人ひとりに最適な方法を検討したうえで、最も効果的な治療を行っています。

【TAVI の手順：経大腿アプローチ（TF）】



鉛筆ほどの太さに折りたたまれた生体弁を装着したカテーテルを1cm弱の小さな穴から太ももの付け根にある大腿動脈に入れて心臓まで運びます。

生体弁が大動脈弁の位置に達したらバルーン（ふうせん）を膨らませ、生体弁を広げ、留置します。

生体弁を留置した後は、カテーテルを抜き取ります。

生体弁は留置された直後から、患者さんの新たな弁として機能します。

【本件取材についてのお問合せ先】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田、清水）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2344 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

用語解説

■大動脈弁狭窄症とは

心臓弁膜症の一つで、動脈硬化などが原因で左心室と大動脈の間にある大動脈弁の開き具合が悪くなる病気です。弁の開きが悪くなることで血流の流れが妨げられ、病状が進むと動機・息切れ・胸痛などの症状が現れるようになり、重症になると失神や突然死に至る場合もあります。

治療法として薬剤による保存的治療、外科的大動脈弁置換術、TAVI(経カテーテル的大動脈弁植え込み術)があり、治療法は症状の進行度合いによって変わります。

【本件取材についてのお問合せ先】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田、清水）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2344 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp